

## 大学の世界展開力強化事業（平成27年度選定）中間評価結果

大 学 名	○上智大学、南山大学、上智大学短期大学部
整 理 番 号	L-7
事 業 名	人の移動と共生における調和と人間の尊厳を追求する課題解決型の教育交流プログラム

### 大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

（総括評価）  <b style="font-size: 2em;">A</b>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
（コメント）	
<p>本事業は、国内のキリスト教系の3大学・短大が中南米諸国の大学と連携して、国際的な「人の移動と共生」をテーマに、両国の学生が共同で学ぶ2つの共通科目を設定するとともに、多様な教育交流により、地球規模の課題に対して広い視野から問題解決に貢献できる人材を育成することを目的としている。</p> <p>事業展開においては、受入学生に対して南山大学が日本語集中コース及び東海地方の日系人社会との交流の場を提供するのにつき、上智大学が学部授業と2つの共通科目を、また上智大学短期大学部がサービラーニングを提供するという役割分担がなされ、各大学の特色を活かした組立てがされている。共通科目は、日本人学生と受入学生のほか、交換留学生等も含めて履修されており、幅広い学生交流に貢献している。マルチキャンパスな活動として、受入学生に対するきめ細かな対応が必要であるが、学生の単位取得等を含め、事業計画で構想された取組が着実に実施されている点は評価できる。</p> <p>プログラム運営協議会によって3大学間の緊密な連携が図られ、インターンシップ協議会では受入企業等の意見も踏まえた改善に努めている。また、外部有識者で構成される国際協働教育評価協力者会議により客観的評価が行われ、質の保証が図られている。</p> <p>一方で、交流学生数について、受入学生数は目標を達成したものの、派遣学生数は事業計画に基づく目標人数に達していない。しかしながら、既に課題は具体的に把握しており、今後の改善と努力によって目標人数の達成が期待できる。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と、将来の我が国の更なる発展に向け、積極的な事業展開に取り組まれることを期待する。</p>	